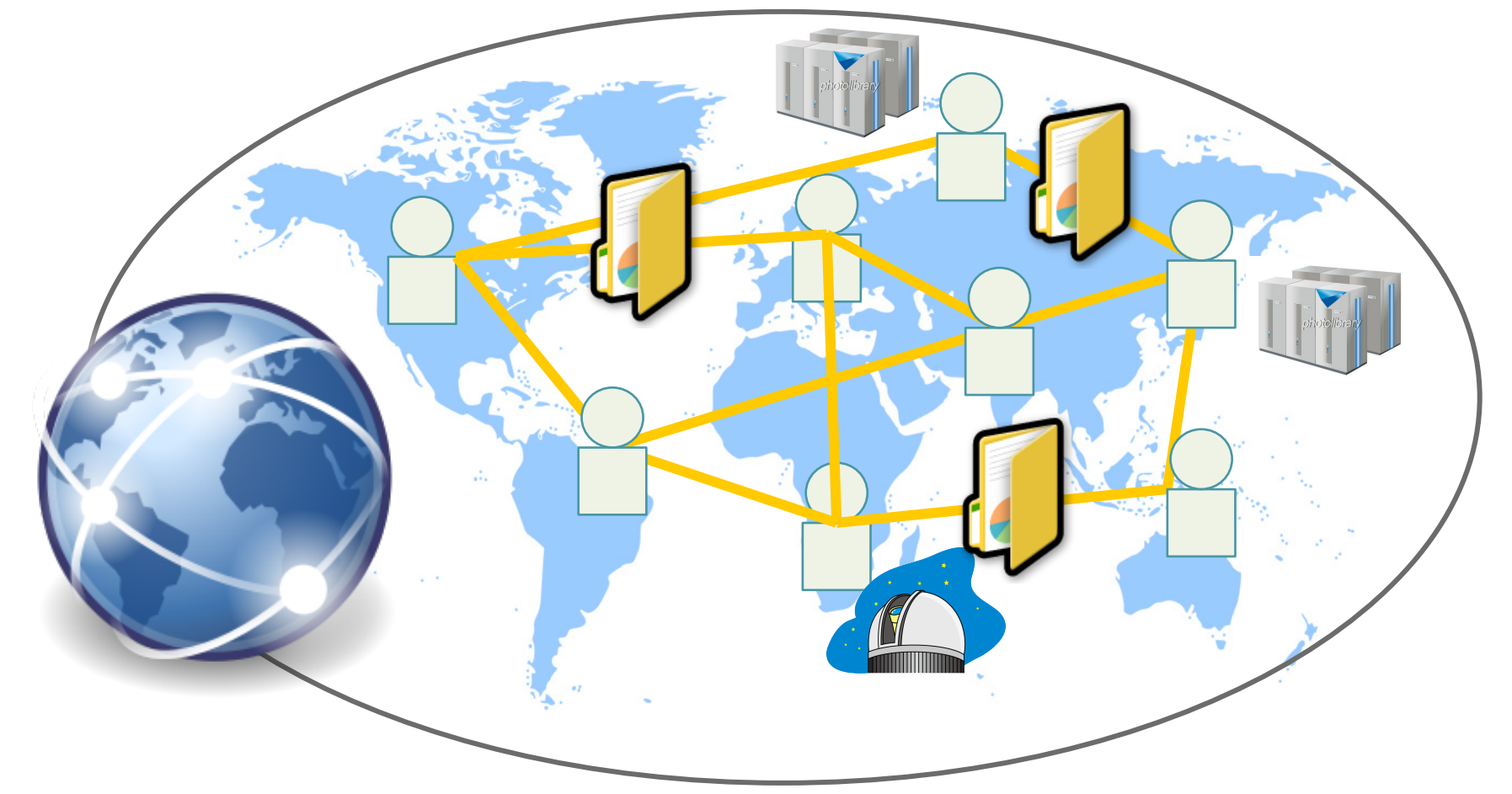


e-Science

ネットワークを介した共同研究を支援するための基盤技術。
地理的に離れた場所に点在する研究者、研究拠点同士での
効率的な連携を実現する。



TDWグラフに適応した可視化アプリケーションの開発

近年、データの大規模化に伴い、データをネットワーク
グラフとして可視化することに注目が集まっている。
可視化したネットワークグラフをTiled Display Wall (TDW)
上に表示することで、ネットワークグラフ全体を見ることが
可能となり、解析の手助けになる。
そこで、データをネットワークグラフに可視化し、TDW上に
表示可能なアプリケーションの開発を行っている。

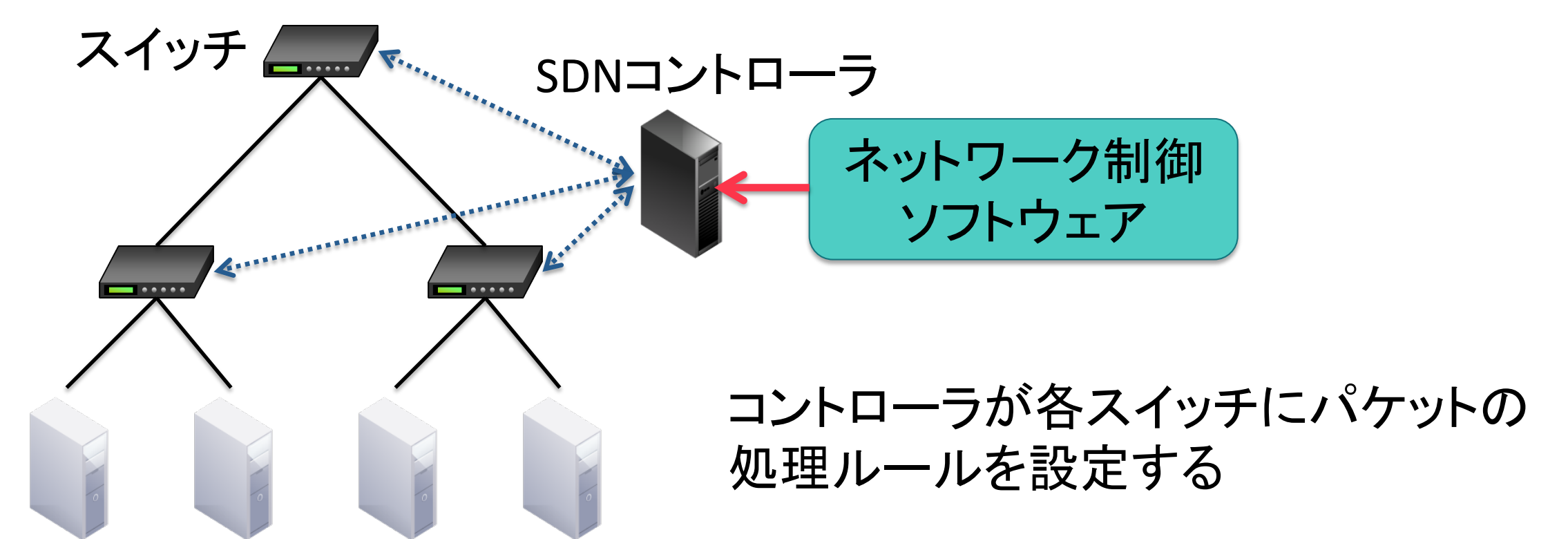


可視化ミドルウェアの特性を考慮した動的経路割当

ネットワークを介し、遠隔地のデータを一つのTDW上
に可視化することが可能である。その際、ネットワーク
の混雑により、可視化の質が低下する場合がある。
そこで、ネットワークの混雑を避けるため、SDNを用いた
動的な経路割当手法を研究している。

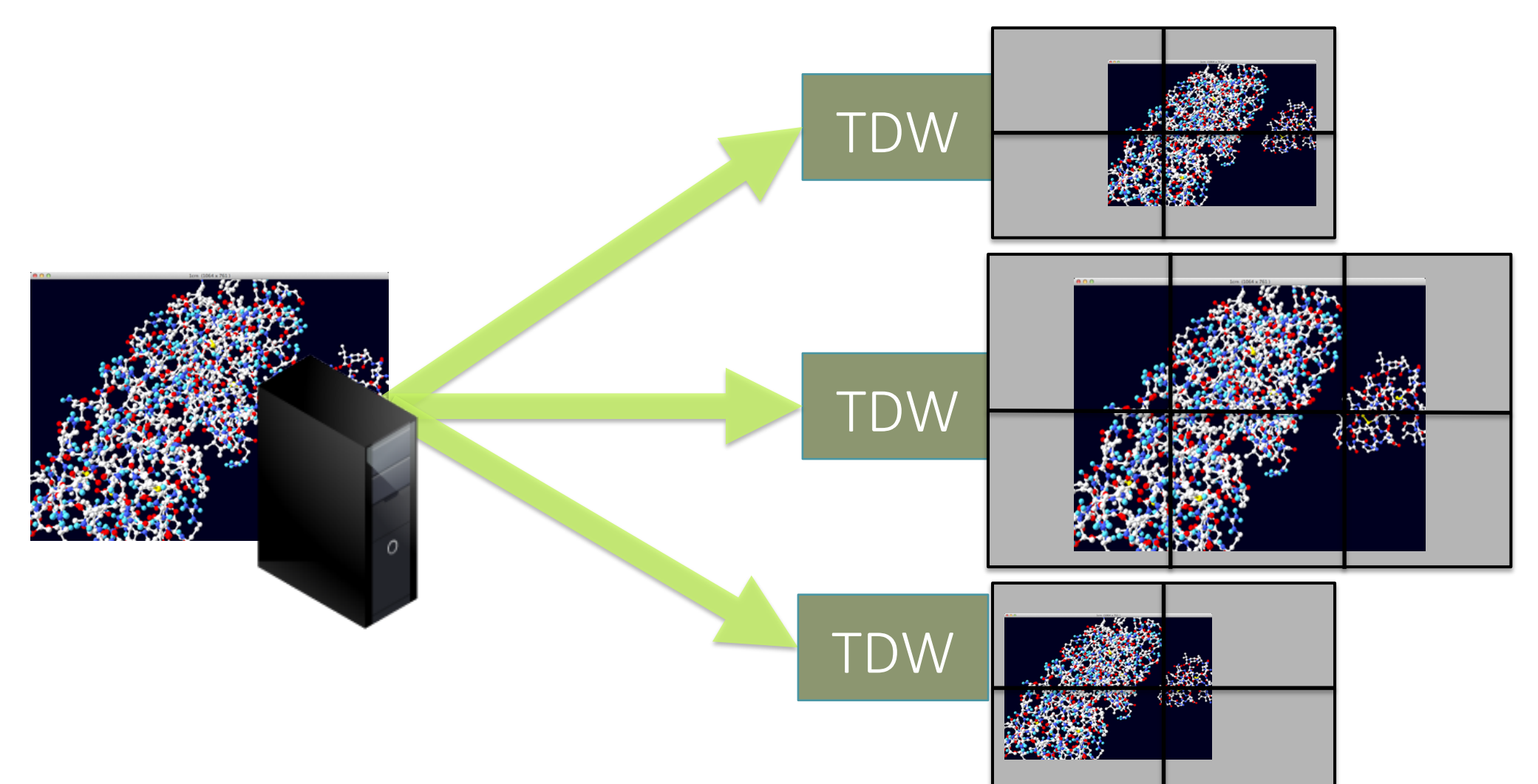
Software-Defined Networking (SDN)

ネットワークをソフトウェアにより柔軟に制御する技術

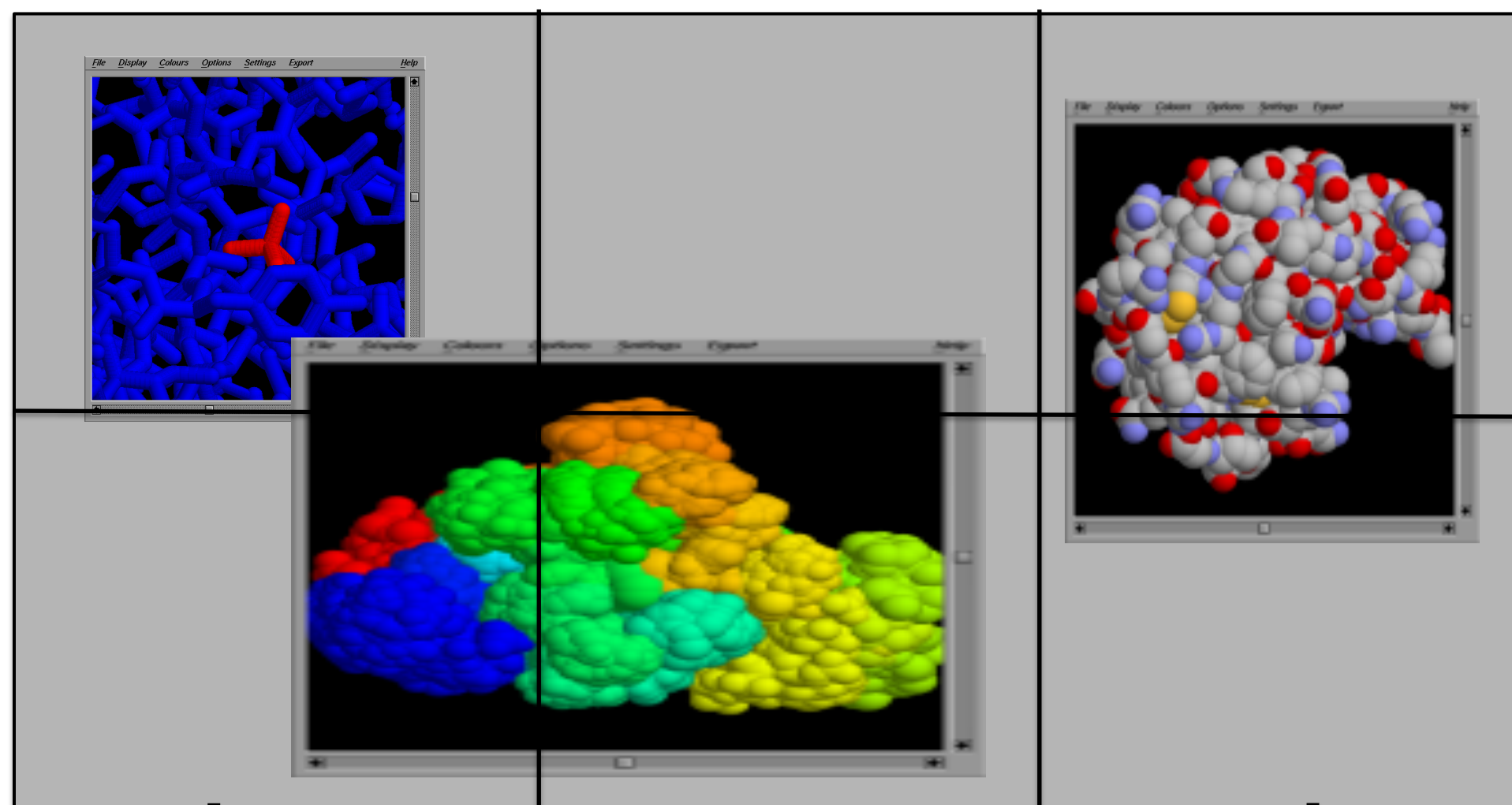


TDW間での画面共有におけるスケーラビリティの向上

TDWを用いてe-Science基盤を実現するにあたって、
TDW間におけるアプリケーション画面の共有が必要
になる。この共有を実現するミドルウェアには、スケー
ラビリティ上の問題が存在する。そこで、スケーラ
ビリティを向上するための手法を研究している。



地点4 TDW



WAN

混雑回避

地点1

地点2

地点3